

指導のポイント ②

◎2 合目（名詞文）

各課の構成と使い方（共通）・・・ 本冊「テキストガイド」をご覧ください。

Ⅰ 課 「とうこう～どうろで～」

<この課のねらい・CanDo>

- ・信号の意味を理解して、安全に登校できる。
- ・「日本語で何ですか」を使い、日本語での名称を尋ねることができる。
- ・「これ、それ、あれ」を使って物を指し示し、説明できる。

<先生方へ>

「危ない」と聞いてその場から逃げられる、自分の身を守るための行動がとれることを目標としています。危険な場面では、まず「あぶない」と伝えてあげましょう。

<主な指導文型・語彙・表現>

- ① 「これ/それ/あれは、～です。」（指示語「これ・それ・あれ」）
- ② 「これ/それ/あれは、何ですか。」（疑問詞「何」）
- ③ 「日本語で何ですか。」

<ポイント>

- ① 「これ/それ/あれは、～です。」

- ・日本語は対象物との距離によって指示語が変わることを理解させる。
- ・「これ」「それ」「あれ」の距離感を体得させる。話し手の近くにあるものは「これ」、聞き手の近くにあるものは「それ」、両者から遠く離れているものは「あれ」。



- ② 「これ/それ/あれは、何ですか。」

- ・「？」カードなどを用いながら、疑問詞「なん」を導入する。

導入例) T:(ものを示しながら)これは何ですか。

C:……

T:(「？」カードを見せながら)これは何ですか。

C:えんぴつ。(→「？」を見せられたことで、質問されているとわかり、回答できた。)

- ・「Q:これは何ですか A:～です。」の応答を定着させてから「それ」「あれ」を導入する。
- ・この課で身の回りの名詞をたくさん導入できる。

例)「これはなんですか。」「消しゴムです。」

「あれはなんですか。」「時計です。」

- ③ 「母語では知っているが、日本語で何と言ったらいいかわからない」とき、特に高学年以上で来日した子どもには有用な表現。原学級で使えるようにしたい。

2 課 あさの かい

<この課のねらい・CanDo>

・日付や曜日、号令をかける、出欠の確認など、朝の会の当番（日直）活動ができる。

<先生方へ>

クラス活動でよく使う表現を最初に指導し、どんどんクラスの活動に参加できるようにしましょう。

“一文は短く、やさしい日本語で”がポイントです。

<主な指導文型・語彙・表現>

- ① 「～は、～ですか。」（疑問文）
- ② 「～は、～ではありません。」（否定文）
- ③ 「～は、だれですか。」（疑問詞「だれ」）
- ④ 今日・明日・明後日 / 曜日 / ～月 / 家族の呼称

<ポイント>

① 疑問文「～ですか」

- ・ 「？」カードを用いながら、この文は「質問」であることを明確にする（1 課参照）。
- ・ この課では「こうたろうさんはお休みですか。」「はい、そうです。」と答えているが、「はい、お休みです。」のような答え方の練習もする（回答としてどちらも可ということを教える）。

② 否定文「～ではありません」

- ・ 「×」カードを用いながら、この文は「否定」の意味であることを明確にする。

導入例） T: (鉛筆を指しながら) これは、鉛筆です。

（消しゴムを指しながら）これは、鉛筆・・・? (「×」カードを見せて) ではありません。

これは鉛筆ではありません。消しゴムです。

- ・ 否定文「～はありません。」は口語。書く時は「～ではありません。」

③ 疑問詞疑問文「～は、だれですか。」

- ・ 人の絵や写真など具体物を用いて導入する。

導入例） T: (「？」カードを見せながら写真を示して) これは だれ ですか。

C: カイさんです。」

- ・ この課では、Yes/No 疑問文と疑問詞を使う疑問文が同じ課に出てくるので混乱をしないように注意する。

④ 時を表す言葉・家族呼称

- ・ 日付けと曜日は、カレンダーを使うなどして概念を確認しながら教える。毎時間、挨拶と共に授業の初めのウォーミングアップ時に確認するなど習慣にするとよい。
- ・ 「よみましょう」で家族の呼称が初めて出てくるので、教える。家族の話題は、デリケートな部分もあるので、事前に児童生徒の家族構成を知っておいた方がよい。

もういっぽ① じかんの ことば

<もういっぽ①のねらい・CanDo>

- ・時計が読める。
- ・時刻を尋ねることができる。

<先生方へ>

生活の中で自然に“時”を意識できるようになるには、時間がかかります。日ごろから時計を見ながら声がけをしましょう。

<ポイント>

- ・ 学年によって扱いを考える必要がある。「分」の言い方（前に来る数字によって「ふん」「ぶん」と使い分ける）は児童生徒の理解状況に応じて練習する。
- ・ 時間と時刻の違いに注意する。
- ・ 疑問詞「何時」を使って、時間を尋ねられるようにする。

導入例）T:（時計を見せながら）今、何時ですか。

C:9 時です。（→ 導入の際には、おもちゃのアナログ時計など具体物を使用するといい。）

- ・ 午前、午後、正午、24 時間表記については児童生徒の概念理解を把握して丁寧に導入する。

＊時計の読み方が日本語でわからないのか、言語に関わらず時計そのものが読めない（時間の概念が曖昧）のか見極めたうえでの指導が大切。

3 課 きょうの じゅぎょう

<この課のねらい・CanDo> ・時刻が言える。 ・何時間目に何の授業があるかわかる。
<先生方へ> 「時」の理解は、子どもによって個人差が大きいです。時間感覚がまだない子には、毎日折に触れて日付や時間を聞き、意識付けをするといいいでしょう。
<主な指導文型・語彙・表現> ① 「〇時間目は、～です。/～じゃありません。」 「〇時間目は、何ですか。」 ② 時間割、教科名称
<ポイント> ＊この課では、新しい文型は学習しないが、学校生活を送る上で必要な時の流れ（時間割）がわかることを目標にしている。 ① 「〇時間目は、～です。/ ～じゃありません。」 <ul style="list-style-type: none">・ 「～時」と「～時間目」の違いを教える。・ この課では「もういっぽ①」で学んだ時間に関わる表現を、実際の生活の中で使えるようにする。・ 実際の時間割表や学校の日課表を使って、子どもの学校生活について話すことを意識する。・ 時間に関わる「～時から～時まで」が使えるようにする。 ② 時間割、教科名称 <ul style="list-style-type: none">・ 教科名は、ひらがなでも漢字でもわかるようにする。

もういっぽ② ものの かぞえかた

<もういっぽ②のねらい・CanDo> ものによって数え方が違うことを理解できる。
<先生方へ> 助数詞は、一朝一夕には覚えられません。ものを数えるときは、意識的に助数詞を入れながら数えるなど、自然に耳に入る工夫が効果的です。助数詞と具体物を一緒に提示すると、理解の助けになります。
<ポイント> <ul style="list-style-type: none">・ 一度に覚えさせようとしない。支援の時間に限らず、ものを数える場面では意識的に助数詞を使って子どもと一緒に数える。・ 数字によって言い方が変わる助数詞「人」「匹」「本」などがあるので、丁寧に教える。 (人… ひとり、ふたり、さんにん、よにん/本… いっぽん、にほん、さんぽん/いくつ… ひとつ、ふたつ、みっつ)

もういっば③ かずの ことば

<p><もういっば③のねらい・CanDo></p> <ul style="list-style-type: none"> ・通貨の種類が分かり、買い物ができる。 ・大きい数が読める。位取りが分かる。
<p><先生方へ></p> <p>数や量の概念は、子どもによって様々です。子ども一人一人の力に合わせて丁寧に確認しましょう。</p>
<p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 疑問詞「いくら」。買い物ごっこのように具体的な活動を通して導入するといいい。 ・ 学年や理解の様子に応じて物と値段を設定してもよい。 ・ 「～をください。」「～はいくらですか。」「～は～円です。」を学ぶと買い物ができる。高学年～中学生なら実際の広告チラシを使うのもよい。 ・ 母語によっては数字の読み方の位取りが日本語とは異なるので丁寧に扱いたい。(英語の例: 10,000 は、ten thousands)

4課 さんすう

<p><この課のねらい・CanDo></p> <ul style="list-style-type: none"> ・数字や四則計算など、算数用語の読み方がわかり、答えが言えるようになることで算数の授業に参加できる。
<p><先生方へ></p> <p>「あわせて」「のこりは」「ちがいは」等は、算数独特の表現(学習言語)です。絵を見たり、実物を操作しながら見せるといいでしょう。</p>
<p><主な指導文型・語彙・表現></p> <p>算数の学習言語・・・ あわせて、のこりは、ちがいは、式、答え</p>
<p><ポイント></p> <p>＊ここでは、新しい文型は扱っていない。これまでに学習した“やさしい日本語”を使うことで、日本語初期の段階でも教科につなげることができると実感してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「あわせて」「のこりは」「ちがいは」といった学習言語は、実物の操作を見せながら教える。 ・ 既習の文型で文章問題を作り、「読んで立式→答え」の流れを実際にやってみる。 <p>例) りんごが5こ。みかんが7こ。あわせてなんこですか。</p> <p>りんごが5こ。3こ食べます。のこりはなんこですか。</p> <p>4年2組です。男子が14人。女子が17人。ちがいは何人ですか。 など</p>

5課 なつ休み

<この課のねらい・CanDo>

- ・カレンダーが読める。
- ・「昨日」「今日」「明日」の振り返りと見通しが持てる。

<先生方へ>

日本語は時制によって「～です」（現在・未来）、「～でした」（過去）のように、文末表現が変わることを伝えていきましょう。

<主な指導文型・語彙・表現>

- ①「昨日は、～でした。」（名詞文過去、平叙文）
- ②「～は、～ではありませんでした。」（否定文）
- ③「～は、いつでしたか。」（疑問文、疑問詞「いつ」）
- ④時を表す語彙… 「ついたち～とおか」「昨日、今日、明日」「先週、先月、去年」など

<ポイント>

- ① ・時を表す言葉と共に、過去の形を導入する。
導入例) T:(カレンダーを見せながら) 明日は水曜日です。昨日は月曜日でした。
・過去概念があるかどうかの確認をする。
- ② この課の本文は日記文。否定文は口語の「～じゃありませんでした」ではなく、「～でありませんでした」を提示している。(2 回目 2 課参照)
- ③ 疑問詞「いつ」の導入。カレンダーを見ながら、実生活に即した質問をすると分かりやすい。
導入例) T:スキー教室はいつでしたか。
C:I 月 23 日でした。
- ④ ・時を表す言葉… 曜日、月日、今日・昨日・明日 (週、月、年など)
子どもの理解状況に応じて導入する。
読み方に注意する 月:しがつ、しちがつ、くがつ 日:ついたち、ふつか、みっか…
これらは一度に覚えるのは難しい。授業開始の時に確認するなど、ルーティン化してくり返し扱うとよい。
・日記が書けるようになってくるので、縦書きの練習や原稿用紙の使い方にもふれる。

もういっぽ④ きゅうしょく

<もういっぽ④のねらい・CanDo>

- ・複数のものを挙げて、食べ物などを紹介できる。
- ・材料について説明できる。

<先生方へ>

「野菜…にんじん、きゅうり」「果物…みかん、りんご」のように、上位語・下位語を意識して教えましょう。言葉と概念が結び付き、整理されます。

<主な指導文型・語彙・表現>

- ① 「～は、～、～と～です。」
- ② 「～や～は、～です。」
- ③ 「～は、～の～です。」 属性を表す「の」

<ポイント>

*ここでは新しい文型は扱っていない。既習の文型「～は、～です」に組み合わせる助詞によって意味することが微妙に変わることを教えたい。

- ①② ・「～と」「～や」の機能の違いに注意する。

「～と」…数が限定される。例・トマトときゅうり(だけ)

「～や」…それ以外にもあることを示唆している。例・トマトやきゅうり(のほかにじゃがいも、にんじん)

- ・この文型を使いながら、上位語・下位語の概念を整理する。

「トマトやきゅうりは、野菜です。」

- ③ 「豆腐の味噌汁」のように、この課で扱う「の」は所有ではなく“属性”。母語によっては語順が反対になる場合があるので気を付ける。その影響で、それをそのまま般化させ「バナナのブラジル」などと表現してしまうことがあるので要注意。

もういっぽ⑤ えんそくの れんらく

<p><もういっぽ⑤のねらい・CanDo></p> <p>・先生の話聞いて予定が分かる。</p>
<p><先生方へ></p> <p>子どもが不安なく行事に参加できるように、持ち物は実際のものや写真を見せたりしながら説明するなど、丁寧に伝えましょう。</p>
<p><主な指導文型・語彙・表現></p> <p>時間など予定を伝える表現や語彙…「出発(解散)は、〇時〇分です。」</p>
<p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、これまで学習した文型を用いた“やさしい日本語”を使うことで、日本語初期の段階でも行事の説明ができることを実感してほしい。 ・遠足に限らず、社会見学や修学旅行など、子どもに応じて取り上げるトピックを扱う。 ・「出発」「集合」「解散」といった漢字語彙は、定着しにくいので指導者側が意識して教える。 例)「集まれ。」「集まって。」は分かって「集合」はわからない。 ・「よみましょう」の「おしらせ」文書を読んで、行事の時間や場所、持ち物を確認する練習をする。実際にクラスで配られたおたよりと一緒に読むのもいい。やさしい日本語で、必要な情報だけを入れたおたよりは、日本語が不十分な保護者への助けにもなるということを念頭に置く。

もういっぽ⑥ おべんとう

<p><もういっぽ⑥のねらい・CanDo></p> <p>日本のお弁当文化を知る。</p>
<p><先生方へ></p> <p>・「お弁当」は日本独特の文化です。「お弁当箱、箸、箸箱、ナフキン、お弁当ぶくろ」は実物を見せながら、保護者にも説明するといいでしょ。</p>
<p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストのお弁当のイラストに色塗りをしてみて、イメージを膨らませる。 ・母国の食べ物について調べることを通して母語・母文化理解につなげ、子どもの自己肯定感を育てたい。

もういっば⑦ いろ・かたち・きごう

<もういっば⑦のねらい・CanDo>

・日常生活でよく目にする記号や、教科書に出てくる記号、図形などの名称がわかる。

<先生方へ>

私たちが知っていて当たり前と思っている言葉も、日本語を学ぶ子どもたちにとっては初めて知る言葉です。「もしかしたらこの言葉を知らないかもしれない」と、常に心に留めておくことが大切です。

<ポイント>

・色鉛筆やクレヨンの 12 色を紹介している。「赤、青、黄色、白、黒、茶色」は名詞であるが、修飾的に使う場合は「赤い鉛筆」のように形容詞になる。しかし、「緑、ピンク、オレンジ、水色、黄緑、紫」は形容詞にはならず、「緑の鉛筆」のように「名詞+の」になることに注意する。

・図形の名称は児童生徒の学年に応じて扱う。頂点や辺といった名称は中学校の数学でも出てくるのでしっかり身に付けさせたい。

2 合目のふりかえり

・疑問詞に呼応する答え方を身に付けさせたい。自分事として答えられるよう、子どもの生活に即したQ&Aを心がけてほしい。

例) T:○○さんは何年生ですか。 C:私は3年生です。

T:○○さんのクラス、一時間目は何ですか。 C:算数です。

・練習問題は、問題形式に慣れて自力でできるようになるまで、指導者が一緒に取り組む。